

学校法人常磐大学 広報誌 TOKIWA POST [トボス]

# Topos

vol.77  
Nov. 2015

「特集」  
まちに学び、まちを元気に。

「特集」



[特集]

# まちに学び、 まちを元気に。

常磐大学では、各学科のゼミや有志による集まりを通して、  
まちを元気にするさまざまな活動に取り組んでいます。  
地域をフィールドとし、その中で大人たちと触れ合い、自分たちの力を試す。  
まちの活性化にかかわり、まちの人々の役に立つことで、  
学生たちも教科書だけでは学べない経験を積み、大きな成長を遂げています。



アートプロジェクトは成果が見えにくく、協賛を募る際には苦勞もありました。社会は経済的な負担に対して、ある意味とてもシビアだと知ったのも良い経験です。

ミーティングを重ね、  
連絡を密にすることを徹底。  
「みなとメディアミュージアム(MMM)」は、アートによる地域活性化を目指し、毎年夏、ひたちなか海浜鉄道、湊線沿線で開催しているアートプロジェクトです。私は1年次の終わりから活動に参加し、2015年は副代表として運営にかかわりました。もともとアートに興味があり、1年次の夏、水戸芸術館の教育プログラム「アートバス」に

ガイドスタッフとして参加した際、小学生に説明した経験がとても楽しかったことから、中村先生からMMMのスタッフを募集していると聞いて、チームに加わりました。実際の活動は2年次の5月、アーティストや商工会議所、那珂湊地区商店街の方々と、作品展示の場所などを考えるためのフィールドワークから始まり、プロジェクトにかかわるようになって今年で3年目になります。主な仕事は地元の協賛を募ることやスタッフのシフト調整などです。プロジェクトには東京や神奈川の

みなと  
メディア  
ミュージアム

アートを中心にして  
人と人がつながっていく。

星遥佳

みなとメディアミュージアム2015 副代表  
常磐大学 人間科学部コミュニケーション学科4年

学生も参加しています。そのため那珂湊で毎月行われる商店街の夜市「ドゥナイトマーケット」で那珂湊の方と交流を深める一方、MMMの都内でのミーティングにも毎回参加することで、地域の方たちと遠方の学生スタッフの連携役になることを心掛けました。代表のサポートを通して地域に密着したより良いイベントにしようと努めました。



那珂湊第一小学校のワークショップで子どもたちが作ったモビール。那珂湊の海をピカピカ輝いて泳いでいます。

## 活動を通して学んだのは、人とのつながりの大切さ。

学生スタッフは会期中、シフトを組んで展示場所に常駐しています。特に、展示されているアートはメッセージ性が強い作品が多く、それを理解するには説明が必要のため、スタッフの役割も重要です。お客様に、那珂湊とのつながり、この場所にあることの意味、作品が生まれてきた背景をご説明し、「なるほどそういう意味があるのか」「地元のことなのにまだ知らないことがあるなあ」と言っていたときは、とてもうれしいです。活動を通して感じるのは、人とのつながりの大切さです。自分から交流を深めることが、より良い結果につながることを体感し、地域の方やスタッフとのコミュニケーションがいかに大事かということ学びました。卒業後は企業に就職しますが、MMMでの経験はきっと私の自信になってくれると思っています。

## 学生主体のアートを通じた地域活性化イベントとしてこれだけ続けているのは稀有な例です。



中村 泰之 准教授

常盤大学 人間科学部  
コミュニケーション学科

●研究テーマ：アート・デザインを通じた地域活性化

私自身は第3回にあたる2011年からMMMにかかわり、翌年の2012年からは学内に「M4」というサークルを組織して、学生の積極的な参加を募っています。「M4」では、ひたちなか市の商店街が主催するイベント「ドゥナイトマーケット」にも参加し、学生主体のワークショップ「TOKIWAまちなかラボ」を毎月実施しています。学生たちは大学の外の社会とかわかることで見違えるほど

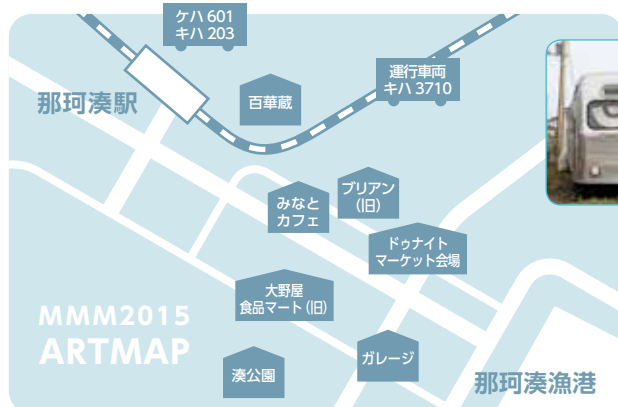
成長します。特に、星さんは今回、副代表として、学生スタッフの取りまとめや外部との交渉に奔走してくれました。地元の小学校でワークショップを行い、その作品を展示したのは初の試みでしたが、このように、毎年新しい企画を取り入れ、イベント自体も成長しています。2016年の夏も、できれば湊線に乗って、鑑賞に来ていただけると学生たちの励みになります。



## 「アートは地域を変えられる」が合言葉。

MMMは産学芸によるグループによって運営されています。芸術表現と地域との協働でまちの活性化を図ることを目指し、2009年から開催。今年度は7回目を数えます。「アートは地域を変えられる」を合言葉に、年々規模が拡大しています。

【MMM2015】 ●会期：2015年8月9日(日)～8月30日(日) ●会場：ひたちなか海浜鉄道・湊線車両／駅構内、那珂湊地区商店街



会期中は、市街地だけでなく、ひたちなか海浜鉄道の車両や駅構内もアートスペースに変貌し、多くの人が作品に触れた。



イベントスペース「百華蔵」をはじめ、カフェ、公園など、那珂湊のまちのあちこちに作品が展示された。



## さわって観る 富嶽 三十六景展

さわって楽しむ展示資料をすべての人に。  
全国各地で展示会を開催してきました。

泉里奈 常磐大学 コミュニティ振興学部 コミュニティ文化学科 4年

### 誰もが指でなぞって楽しめる 凹凸のある触察資料

これまで美術作品は目で見るのが当たり前で、視覚に障がいがある方は音声ガイドでしか楽しむことができませんでした。しかし、この「さわって観る富嶽三十六景展」では、葛飾北斎の版画をもとに凹凸のある触察資料をつくり、目が見える人も見えない人も、誰もが指でなぞって楽しく鑑賞できるようにしたことが大きな特徴です。私は、この活動を支えている「すべての人の幸せ」「誰もが楽しめるミュージアム」という考え方に共感し、自分も役に立ちたいと思い、3年次から活動に参加しました。展示開催に向けては、展示物の制作や会場探し、資料作りやPR活動などさまざまな準備が必要です。そのすべてを学生自身の手で行うことは苦勞もありましたが、活動を通して企画力、運営力を鍛えることができました。また、お客さまに説明するため、富嶽三十六景の作品の背景や作者である葛飾北斎に関して学び、一人ひとり解説をロールプレイして、改善を重ねていった結果、作品の鑑賞方法や作品の内容に関する解説も上達していき

ました。何より、ご来場いただいた方にどうすれば分かりやすく伝えられるかを考え抜いた経験は、物事を相手の立場になって考えるトレーニングにもなったと思います。

### より多くの人の手元に届けられるよう 触察本をつくる計画も進行中

昨年から大阪や名古屋、東京、新潟、福岡、山梨など日本各地で展示を行い、その都度お客さまの意見を取り入れていたことで、作品の並べ方についても、回を追うごとにベストな配置を見つけていくことができました。障がいがある人もない人も同じ空間で楽しむ姿を見て、生涯学習は、みんなのための学習なのだを再確認できたことも収穫です。活動を通して、障がいがある方が実際にはどんなことに困っているかなどを知ることができ、今後身近にいる障がいがある方も積極的にサポートしていきたいと思っています。また、この活動をもとに、

より多くの人に「さわられる芸術作品」を楽しんでもらうため、全国や世界の人の手元に届けることができる触察本をつくる計画も進行中です。その発想も、お客さまの意見をベースに生まれたものであり、アイデアは多くの人と接することで大きく広がっていくことを実感しています。



印刷の後、熱加工をするのですが、熱のかけ方が難しく、凹凸の調節には苦勞しました。



作品には点字で解説も添えることで、全体像をつかみやすいように配慮しました。

# まちに学び、まちを元気に。



中村 正之 教授

常磐大学 コミュニティ振興学部  
コミュニティ文化学科

●研究テーマ: 生涯学習(主に、学習プログラム論)

## 学生主体の運営を通して真の公共福祉を実践できる人へ

専門は生涯学習論で、「いつでも」「どこでも」「誰でも」「何でも」学べることをテーマにしています。上記の4つのうち「誰でも」が十分なされているか疑問があり、特に視覚障がい者に対する学習支援を課題としていました。学びたいという欲求に応える資料をつくるため、研究室では熱膨張紙を利用し、天体写真や顔写真などを加工した触察資料をつくってきました。芸術作品を加工し始めたのは2012年からです。北斎の

「神奈川沖浪裏」を取り上げた学生がおり、そのとき版画の多色刷りにヒントを得て、画像を分割することを思いつきました。こうした活動は、学生にとっては視覚障がい者への学習支援が手薄なことに気付くきっかけであり、これからのユニバーサルデザインを考える機会にもなっています。また、障がいがある人と身近に接し、その生の声を聞く経験から、本当の意味での公共福祉を実践できる人に育つことを期待しています。

## 「さわって観る 富嶽三十六景展」

- 第1回 2015年8月20日(木)~8月26日(水)  
於:常磐大学同窓会館
- 第2回 2015年8月27日(木)~9月1日(火)  
於:茨城県水戸生涯学習センター

## 誰もが楽しめるユニバーサルミュージアムを目指して

富嶽三十六景の触察資料は、山梨県立博物館からの原画像の提供と、日本ライトハウス情報文化センターの職員の方からのアドバイスを受け、2013年に「TEAM MASA」によって完成しました。熱膨張紙によって浮き上がった線画は、視覚障がい者だけでなく、誰もが指でなぞって楽しむことができます。また、版画を4分割することで、表現の狙いが分かりやすくなり、作品をより深く味わうことができます。



作品を1枚のペーパーで表現すると、情報量が多すぎて理解が難しい。4分割し、順番に情報を加算することで、作品をより理解しやすくなった。



元の作品をモノクロ化し、用紙に印刷、加熱することで凹凸のある触察資料ができあがる。



「TEAM MASA」とは2013年、中村正之研究室の学生や卒業生らで結成された研究チーム。障がい者にも健常者と同じ方法でミュージアムを楽しんでもらいたいとの思いを共有し、触察型資料の研究開発を通して、これからの日本や世界を元気にすることを目指している。



構成要素分割表現法を用いて制作したサンプル。①で富士山を、②で波に揺れる船を、③で荒波を、④で全体をさわれるようになっている。

# News and Topics

学生、生徒、園児たちは日々学び、経験し、成長を続けています。  
このページでは学校法人常磐大学の各学校の取り組みやイベントの様子をはじめ、  
日々の活動とその成果をお知らせします。

「常磐大学&水戸ホーリーホックコラボデー2015」は  
来場者数5,431人を数え、今年のホームゲーム平均  
入場者数を上回りました。

8月1日、水戸ホーリーホック対ツエーゲン金沢戦において、「常磐大学&  
水戸ホーリーホックコラボデー2015」を開催しました。試合前は、国際学  
部経営学科の学生によるボールを蹴って的中するゲーム、サッカーとボ  
ウリングを融合したゲーム、ペイントシールを貼って記念写真を撮影するイ  
ベントや、ホーリーと常磐カラーのカラフルゴムを使って応援プレスレットを  
作るイベントなどで来場者を楽しませました。また、高等学校の生徒は、運  
営ボランティアとして会場をサポートし、女子サッカー部は前座試合、チア  
リーディングはダンスパフォーマンスで観客を魅了。さらに、選手入場時  
には幼稚園児によるエスコートキッズや、智学館の生徒によるフェアプレー  
フラッグベアラーが活躍し、会場を盛り上げました。

法 人



幼稚園



「ベジタイム」で色とりどりの夏野菜の生長を観察。  
収穫のお手伝いもしました。

常磐短期大学幼児教育保育学科の村上八千世先生と同ゼミの学生たち  
が、本園のまつの子広場で土を耕し、畑を作って夏野菜を育て、収穫を  
行いました。活動名は「ベジタイム」。子どもたちも一緒に生育を見守り  
ながら、水やりや雑草取り、収穫のお手伝いをしました。トマト、ナス、  
枝豆、人参、トウモロコシ、ゴーヤ、さつまいも、スイカ、ハーブ類など、  
15種類もの野菜たちがお日さまの光をいっぱい浴びた色とりどりの姿を  
見せてくれました。栄養満点の野菜たちの、一つ一つの葉形や育ち方の  
違いを目の当たりにして、野菜がどのようにして育っていくか、子ども  
たちはそれぞれの生長過程を学ぶことができました。今後は、冬野菜の  
種まきも控え、今から収穫が楽しみです。

大 学

「学校法人常磐大学ローズヴィラ水戸奨学金制度」  
による奨学生4名が決定しました。

奨学生に選ばれたのは、コミュニティ振興学部4年の川俣真李さん、富  
田仁美さん、3年の兼澤未希さん、山口茜さん。4名は、6月5日、一般財  
団法人安寿苑様が運営する老人ホーム「ローズヴィラ水戸」を訪問。奨  
学生を代表して、川俣さんが挨拶を述べ、社会福祉士の勉強会に参加し、  
試験対策を行っていることや、校外実習の際、利用者の方から感謝  
の言葉をかけられ、社会福祉士への思いが一層強くなったことを伝えま  
した。同ホームの理事や総務部長、施設長からは、「いつでも応援してい  
る」「資格は身を立てるものだから、しっかり勉強を」という励ましの言葉  
をいただきました。今後4名の奨学生は、ローズヴィラ水戸でのボラン  
ティア体験を通して、実践的で具体的な地域福祉を身につけます。





大学

### 常磐大学オープンカレッジ10周年記念講座「茨城の文化を考える」を開催しました。

本学の一般社会人向け公開講座が「常磐大学オープンカレッジ」に名称を変更して10年になることを記念した連続講座(4日間)が、9月2日から本学を会場に開催されました。記念講座は、本学与株式会社茨城新聞社との共同で企画され、オープンカレッジで歴史・文化・文学の分野を担当する5人の講師が「茨城の文化」をテーマに講義を行い、最終日の9日には講座のまとめとして、公開討論「茨城の文化とその背景」を開きました。当日は台風18号の影響による悪天候にもかかわらず、多くの受講生が参加し、活発な討論が行われました。開かれた学びの場として地域の方々から親しまれている常磐大学オープンカレッジは、今後もどなたでも学べる大学の生涯学習講座として、本学の持つ教育資源を地域社会に還元します。



智学館

### 恒例「智学館カップ」を開催。今年も会場全体が一体感に包まれる感動の1日になりました。

6月21日、第8回智学館カップを開催しました。当日、水戸エリアは時折雨が混じるあいにくの天候でしたが、観覧していただいた多くの保護者や卒業生の声援を受け、全校生徒が精一杯の力を発揮しました。大縄跳びでは練習ではできなかった大記録を達成することができたほか、短距離走やリレー、綱引きなどの競技も白熱。各団一致団結して手に汗握る攻防を繰り広げました。午後は会場を体育館に移し、伝統の「応援合戦」を披露しました。智学館カップの目玉ともいえる応援合戦では、青団と赤団に分かれ、3月から重ねてきた練習の成果をあますことなく出しつくり、体育館に響きわたった大迫力の演舞は、会場全体に感動の涙を呼びました。今年の智学館カップも大成功のうちに幕を閉じることができました。



高校

### 常磐大学高校の魅力を直接体験できるオープンスクールを開催。猛暑の中、昨年を上回る来校者数でした。

7月25・26・27日の3日間、オープンスクールを開催しました。当日は、入試概要の説明や「学校紹介DVD」、合唱同好会の「校歌斉唱」、吹奏楽部による「ウェルカムコンサート」など、代表生徒や各部活動の部員たちが登場して盛り上げました。その後、スタンプラリー形式で校舎内を自由に見学する「校舎見学スタンプラリー」のほか、「テーピング講座初級」「漢字で遊ぼう!」などさまざまな体験学習を通して、常磐での高校生活の一部を体験していただき、「学校内がよく見られて良かった」「活気にあふれ、意欲が感じられる学校でした」などの感想をいただきました。3日間の合計来校者数は1,860人と、連日の猛暑にもかかわらず、昨年を上回る数の中学生や保護者の皆さまにご来校いただくことができました。



短大

### 「茨城県ゆうあいスポーツ大会」で幼児教育保育学科がボランティア活動を実施しました。

5月24日、第17回「茨城県ゆうあいスポーツ大会」レクリエーション競技で、常磐短期大学幼児教育保育学科の1年生が、ボランティア活動を行いました。茨城県などが主催するこの大会は、障がい者スポーツの振興を図るとともに、県民の障がい者に対する理解を深めることが目的です。幼児教育保育学科では、社会に生きるさまざまな人たちとふれあい、学生一人ひとりの視野を広げることを目指して、このボランティア活動を現代教養講座の「心の充実」という授業で実施しています。学生たちは、参加者の誘導や用具の管理などを担当しながら、コミュニケーションの大切さを学びました。「障がいがある方との接し方を、とても分かりやすく学ぶことができた」というコメントのように、活動で得た学びの成果を実感していました。



大学

第26回「伊藤園 お〜いお茶 新俳句大賞」で本学学生2名が入賞しました。

●佳作特別賞

「静寂を切り裂く波紋 大白鳥」  
国際学部 英米語学科3年 常井 里美

●佳作

「灰色の 世界に映える 返り花」  
人間科学部 心理学科2年 大森 香穂

●佳作

「朝霧に 浮かぶ筑波嶺 墨絵空」  
人間科学部 総合講座 准教授 平野 哲也

2014年度秋 semester に開講された総合講座「創作文化演習」(担当:二村博助教)において、学生がつくった俳句を第26回「伊藤園 お〜いお茶 新俳句大賞」に応募したところ、本学から学生2名と平野哲也准教授が見事入賞しました。応募総数過去最多の176万5,150句の中、佳作の大森さんと平野准教授には賞状と句集が贈られ、佳作特別賞の常井さんの句は、2017年の春以降に、「お〜いお茶」のパッケージに作品が掲載される予定です。



智学館

「英語インタラクティブフォーラム」県大会に本校生徒2名が出場しました。

茨城県独自の「英語インタラクティブフォーラム」が本年度も行われました。本校からは中学生の部に4名、高校生の部に1名が参加し、8月21日の県大会には、それぞれの部から1名ずつが勝ち進みました。中学生の部では、学年によって異なるテーマについて英語で議論。その姿は中学生とは思えないほどハイレベルでした。また、高校生の部では、さまざまなテーマで工夫をこらしたプレゼンテーションが英語で行われ、コミュニケーション能力の高さが印象的でした。結果、2年次飯島れいなさんが茨城県教育研究会会長賞を、4年次松山実玖さんが茨城県高等学校研究会会長賞を受賞しました。



智学館

スウェーデン高校生起業家との交流会を開催。同世代の活躍に大きな刺激をもらいました。

8月19日、三菱総合研究所から機会をいただき、スウェーデン高校生起業家nEthics社の3名との交流会が本校で行われました。nEthicsは、高校生を対象にSNSの利便性ばかりでなく危険性を啓発するというビジネスを展開しています。高校生で起業するというチャレンジについて、どのように学業と両立させたかなどを話してもらい、「自分ならどのような会社をやってみたいか」などといったテーマで本校4年次生たちと交流しました。海外の同世代がどのような取り組みをしているのかを知り、本校生にとって非常に大きな刺激になりました。この様子は茨城新聞、いばキラTVでも取り上げられました。



幼稚園

わくわくチャレンジ「運動遊び」に挑戦。年中組のみんなが伸び伸びと体を動かしました。

5月26日、常磐大学の広い体育館に集合。常磐短期大学幼児教育保育学科の森慎太郎先生と学生たちと一緒にマット運動と平均台で遊びました。まずはアザラシやワニ、クマなどになってマットの上を歩行運動。動物になりきって歩くことができました。次は野菜に変身し、サツマイモやジャガイモになってコロコロ転がったり、でんぐり返しに挑戦したりと、友達同士楽しむことができました。鉄棒ではポイントを教えてもらい、一人ひとりチャレンジ。森先生や学生の皆さんとのやりとりはとても楽しく、年中組の子どもたちも大喜びでした。



高校

カナダサマーキャンプを実施し、無事帰国。引き続き3ヵ月語学留学に参加の生徒は、現地校にて新学期に入りました。

9月6日、カナダサマーキャンプを終えた生徒3名が無事成田空港に到着しました。サマーキャンプ最終日には、現在エドモントンのマクギアン大学に留学中の本校卒業生が駆けつけてくれ、生徒たちは留学についての貴重な話に聴き入っていました。カナダでの10日間、カナダの文化と英語での生活や、カナダの大自然を体験したこと、ホストファミリーと語り合ったことは、一生の思い出となり、今後の人生にきっと役に立つことでしょう。3ヵ月プログラムへの参加生徒5名は引き続き現地に残り、ハリリー・エインリー高校で新学期を迎えました。11月までの間、さらに現地で学び続けます。



大学

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会と「ボランティア・市民活動フェスティバル2015～安心した地域生活を送るために“ワタシ”にできること～」を開催

8月20日開催の、このフェスティバルは、ボランティアや市民活動にスポットを当て、その裾野を広げていくことが目的。当日は、小説家の荒川祐二氏の基調講演のほか、被災者支援や障がい者福祉、地域活性化など5つの分科会が行われました。本学の学生がボランティアで参加した「高校生の可能性をひらく、対話型キャリア教育体験版(カタリバ)いばらき準備室」では、現在の自分を見つめ直し、未来の選択肢を増やす試みを実施。大学生同士や社会人も参加して、年齢や肩書の枠を超えて語り合う「カタリバ」のプログラムを体験しました。





高校

夏季学校説明会 Part II で体験入部を実施しました。

8月21日、本校の10の部活動(ソフトテニス部、吹奏楽部など)において体験入部を実施しました。参加した約230人の中学生の皆さんは、本校の部員たちとともに体をほぐし、基礎練習などのトレーニングやミニゲームなどで汗を流しました。体験中、監督や高校生からアドバイスを受けているときの中学生の真剣なまなざしが印象的でした。別日程で行われた野球部、男子バスケットボール部の体験入部にも、やる気に満ちた大勢の中学生に参加していただきました。



大学

常陽ビジネスアワードで「J-カレッジ賞」を受賞。女性の活躍を支援するプランが  
高い評価を集めました。

「第3回常陽ビジネスアワード」において、国際学部経営学科4年の宮本夏妃さんが379点の応募作品の中から見事「J-カレッジ賞」を受賞し、6月10日、水戸京成ホテルで行われた表彰式に出席しました。「常陽ビジネスアワード」は、革新的な企画や企業の新たな挑戦に対して贈られるもので、受賞したプランである「女性活躍促進のための『ユリの花、融資』とその支援・コンサルティング事業」の狙いについて、宮本さんは「資金面での施策により、女性活躍に向けて企業トップの意識改革を促すこと」と力強く語ってくれました。



智学館

夢の実現に向け、互いに切磋琢磨。3泊4日の合宿で学習に集中。

5月18日~21日の4日間、北浦のほとりにある白浜少年自然の家・レイクエコーにて、「学習合宿」を実施しました。昨年の「学習合宿」は希望者のみの実施だったため、全校生徒の参加は本校初の取り組みです。1年次生は筑波山登山、JAXAや予科練平和記念館見学など、机上の学習では学べない経験をし、2年次生から6年次生は普段より長い90分の授業や朝と夜に設けた自学自習の時間など、学習に没頭する4日間を過ごしました。先輩・後輩・友人たちが各自の夢の実現に向けて勉強に打ち込む姿勢に刺激を受け、実りある4日間となりました。



幼稚園

ボランティア清掃奉仕作業にご協力いただいた保護者の皆さま、ありがとうございました。

7月15日、年に3回実施しているボランティア清掃奉仕作業を行いました。今回は年中組ボランティアの保護者の皆さんが参加してくださいました。夏の強い日差しが照りつける中、園舎の裏側、水生植物園の入り口の除草作業に精を出していた皆さん、皆さん手際よく進めてくださいました。人数の多さは力なり。さっぱりと清々しい環境になり気持ちよく2学期を迎えることができました。あらためてご協力に感謝いたします。



幼稚園

「育児に役立つ勉強会」を開催。子どもの気持ちを知る大切さを再確認しました。

6月17日は臨床心理士でもある、常磐大学の水口進教授による「子どもの心が見えますか?」、続く7月1日には常磐短期大学幼児教育保育学科の大内晶子准教授をお迎えして「子どものやる気を育てるかわり」というテーマでの講演会を実施しました。「よいストロークをして子どもの心の中に金色のスタンプを増やしましょう」「やる気をもたせる自発的な動機づけの3つのポイントは?」など、先生方の専門分野から導かれた、「子どもたちそれぞれの気持ちをもっと知りたい」と思えるような興味深い内容に、参加された保護者の皆さんもじっくりと聴き入っていました。



高校

今年度の常磐学園同窓会総会は新校舎のお披露目も兼ねて、本校で開催しました。

8月30日、常磐学園同窓会の総会を開催しました。常磐学園同窓会は、水戸常磐女学校の時代から数えて36,000名を超える会員を有する組織です。今年度は、東日本大震災後に建築した新校舎をご覧いただけるよう、本校を会場としました。1950年卒業の方々から2015年3月に卒業したばかりの方々まで、180名以上の会員の皆さまにご出席いただき、退職された恩師や現職の先生方とともに、昔話に花が咲きました。レクリエーションでは、景品大会で盛り上がり、懐かしい校歌を大合唱して会を閉じました。次回は、2017年の開催予定です。

# Spotlight

地域や世界で力を試し、さまざまな活動を通して実践的に学ぶ。また、優れた研究成果を社会に発信する。こうした学内外で行われている活発な活動にスポットを当ててご紹介します。

## インターハイ直後の全国大会で3位入賞！ 全国で戦える選手へと大きく成長しています。

青木 佑介 常磐大学高等学校 水泳部 2年

第38回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 15~16歳 200m背泳ぎ3位入賞

恵まれた環境のおかげで  
水泳に打ち込むことができます。

常磐大学高校は設備や選手の取り組みが素晴らしく、年間を通じて泳げることを魅力に感じ、進学しました。水泳は個人競技ですが、勝つためにはやはりチームワークが大切です。練習で追い込むときやレースが始まるとき、みんなの声援は大きな力になります。本来自分は飽きっぽい性格なのですが、水泳だけは飽きず、楽しんで練習ができていたのも、恵まれた環境のおかげだと思っています。JOCカップでは、インターハイに出場した2日後の出発だったので、体調面だけには注意し、気持ちの切り替えをしっかりと行いました。レースには駆け引きがあり、それにはある程度経験も必要ですが、茨城県の指定選手が集まる合宿にも参加し、県内の上位選手とともに練習していることが刺激になっています。ライバルに後れを取らないように自分と向き合い、チームの仲間と力を合わせて、表彰台のざらに上を目指します。



3位入賞には満足していますが、ジャパンオープンの標準タイムにあと0.7秒届かなかったことが悔しいです。来年の夏に備え、今後も質の高い練習をしたいと思います。



Spotlight  
01  
部活動

## 初めてのインターハイで見事上位に入賞！ 今後の活躍に期待が集まります。

五十嵐 遥菜 常磐大学高等学校 体操部 1年

平成27年度全国高等学校総合体育大会 新体操 個人総合6位、種目別(クラブ)4位



オフの日はリラックスすることも大事。勉強と競技の両立のため、一日のスケジュールをしっかりと決めて、自己管理しています。

試合で納得の演技ができたときは  
毎日の練習のつらさも吹き飛びます。

新体操は1分30秒の演技を採点します。そのやり直しのきかないわずかな時間で、どれだけ自分の持っている力を発揮できるかが、競技のポイントです。また、自分ではしっかり演技できていると思っても、採点者に伝わらなければ得点は伸びません。そのギャップを埋めるために、日々の練習があると思っています。インターハイに出場するのは今年が初めてだったので、大会の様子が分かりませんでした。自分の作品を会場の人たちを楽しんでもらえるように演技しようと臨みました。初出場が入賞を果たしたことはもちろんうれしいのですが、何より自分が納得できる演技ができたことに大きな達成感と喜びを感じています。緊張する場面でもやり遂げる力がつき、年々、自分の成績が更新されているので、さらに自己ベストが出せるように、これからも厳しい練習をがんばりたいです。

## 8月3日、7日の2日間開催された 「いばらきハイスクール議会」に参加しました。

赤木 裕海 智学館中等教育学校 5年次

来年は18歳になり私も選挙権が得られます。来年夏には参議院議員選挙も予定されているので、今からじっくり考えたいと思っています。



最初に行われた議長選挙で投票



副委員長として意見を述べます



防災をテーマに討議しました

自分が住む県を良くするため  
意見をまとめ、行政に直接伝える  
という貴重な経験ができました。

「いばらきハイスクール議会」は高校生が県政の課題について話し合い、県知事に直接質問したり、政策提言をしたりする企画です。私は先生からこの議会のことを教えていただき、生まれ育った茨城について考える良い機会だと思い、参加しました。初日は議長と副議長を投票で決め、その後は「選挙」「魅力」「農業」「防災」の4つの委員会に分かれ、現状の問題点や解決策について話し合いました。私は自然災害への対応などを考える防災委員会を選び、副委員長に立候補しました。委員長をサポートしながら議論を重ね、それをもとに委員会を代表して橋本昌知事に「災害時、高齢者に確実に情報を伝達するため、どのような取り組みをしているか?」と質問し、知事本人から直接回答を得ることができました。非常に得がたい経験になったばかりでなく、全国の高校生がもっと行政の課題にしっかり目を向けなければならないと実感しました。

## 人間科学部 荒田玲子教授が 「平成27年度厚生労働大臣表彰」を受賞。 永年の管理栄養士養成が高く評価されました。

荒田 玲子 教授 常磐大学 人間科学部 健康栄養学科



### Profile

日本女子大学 家政学部 食物科学科 食物学専攻卒業。管理栄養士。茨城県栄養士会理事、日本栄養学教育学会理事、日本栄養改善学会評議員。主な著書は「基礎献立と調理」「調理の科学」「砂糖の事典」など。

学生とともに学び続けたことが  
評価され、とても光栄です。

今回の受賞は大変光栄です。ひとえに長く教壇に立たせていただき、学生とともに、楽しく学び続けたことがその要因であると思い、常磐大学と学生たちに感謝しています。現在は県内に管理栄養士を養成する大学が本学を含め3校ありますが、最初に栄養士養成を始めたのが常磐短期大学でした。ですから現在、県内の責任ある立場で活躍する栄養士には、本学の卒業生がたくさんいます。本学は管理栄養士の本分は医療系だと考えており、カリキュラムの面からも医療に力を入れています。近年は産官学連携のメニュー開発や、茨城県提案型インターシップなどにも取り組み、学生が社会とかわる機会を多く設けています。栄養に関する知識を社会で役立てる体験を通して、これからの時代に必要とされる管理栄養士の育成に努めていきたいと考えています。

大学・短大

- ★ オープンキャンパス ..... 11/13(金)
- ★ 幼教フェスタ ..... 12/20(日)



- ★ 創立記念日 ..... 1/25(月)
- ※常磐短期大学は、2016年1月25日に、創立50周年を迎えます。

高校

- ★ 茨城県私立学校研修会(本校開催校) ... 11/12(木)
- ★ クリスマスコンサート ..... 12/19(土)



智学館

- ★ English Day ..... 12/19(土)
- ★ 書き初め大会(前期) ..... 1/18(月)
- ★ 百人一首カルタ大会(前期) ..... 1/20(水)
- ★ Walking Day ..... 2/13(土)

幼稚園

- ★ 入園願書受付・入園考査 ..... 11/1(日)
- ★ 育児に役立つ勉強会 ... 11/11(水)・2/17(水)
- ★ 発表会 ..... 12/5(土)

アンケートご協力をお願い

- ①印象に残った記事とその理由など
  - ②今後、広報誌で取り上げてほしいテーマなど
- 皆さまからのご意見・ご感想をお寄せください。  
※名前、住所、本学との関係(在籍者の場合、所属する学校名)も併せてご記載ください。

kikaku@tokiwa.ac.jp  
〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1

★お寄せいただいた方の中から、抽選で20名様に常磐大学オリジナルグッズを差し上げます。



寄付者ご芳名

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。(敬称略)  
[2015年5月~8月受け付け分]

■ 諸澤幸雄奨学金制度の創設・充実

企 業	
芳名のみ公表	東武トップツアーズ株式会社水戸支店
個 人	
50,000円	匿名*
45,000円	森 征一*
40,000円	小柳 武*、富田 恭平*
30,000円	中崎 啓子*
20,000円	中村 和彦*
4,000円	坂井 知志*
芳名のみ公表	江原 麻子*、菅野 弘久*、関 いつみ*、田邊 正*、久松 雄大*
累計金額 92,746,671 円	

●複数回お申し込みくださいました方は芳名に\*を付しました。

寄付のお願い

諸澤幸雄奨学金募金へ寄付を賜り、誠にありがとうございます。  
本学では、諸澤幸雄奨学金制度を創設し、その充実および継続的運営を目的に2009年11月から募金を開始しました。この間、多くの皆さまよりご寄付を賜りました。重ねて御礼申し上げます。  
本学では、引き続き募金の受け付けをしております。ぜひとも募金の趣旨をご理解いただき、ご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

★寄付金のお申し込みおよびお問い合わせ

学校法人常磐大学 会計経理課 寄付係  
tel: 029-232-2554 e-mail: kifu@tokiwa.ac.jp  
※寄付募集の詳細については、ホームページでご覧いただけます。

諸澤幸雄奨学金  
奨学生決定のお知らせ

2015年6月に開催した諸澤幸雄奨学金奨学生決定通知書授与式について、以下のとおりご報告いたします。



- 大 学 ... I 種奨学生 6名  
... II 種奨学生 4名
- 短期大学 ... I 種奨学生 2名  
... II 種奨学生 1名

平成27年9月関東・東北豪雨による  
被害へのお見舞いと特別措置について

台風17号および台風18号により被災されました皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。  
このたび、本学では、災害救助法適用地域で被災された世帯の受験生に対し、申し出により入学検定料および受験料の減免等の特別措置を講ずることにいたしました。  
ご相談・ご要望等ございましたら、お申し出ください。連絡先窓口は下記のとおりです。  
被災地の一日も早い復興を心より祈念いたします。

お問い合わせ

- 常磐大学・常磐短期大学 アドミッションセンター  
tel: 029-232-0007
- 常磐大学高等学校  
tel: 029-224-1707(代表)
- 智学館中等教育学校  
tel: 029-212-3311(代表)

